TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　知識は人を高ぶらせ、愛は人を造り上げる
コリントの信徒への手紙一 8:1-13

2025 年 4 月 12 日 & 13 日
余沢　武 牧師

I. はじめに

こんにちは。来週は復活祭の週末、イースターです。ぜひご友人やご家族をお誘いいただき、一緒にイエスの復活をお祝いしましょう。今週の金曜日、午後7時半には、グッドフライデーのプレイヤーミーティングと聖餐式を行います。ぜひご参加ください。

今日は１コリントに戻ります。これまで、パウロがコリント教会からの手紙に記された問題に対応する姿を見てきました。今日はパウロがまた別の問題に取り組む様子を見ていきます。それでは、祈りましょう。

II. 知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます

（1）知識は人を高ぶらせる

１コリント 8:1 を見ましょう。「偶像に献げた肉について言えば、私たちは皆、知識を持っている、ということは確かです。しかし、知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます。」

パウロは「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます」と言います。知識は膨らませた風船のようなものです―大きく見えるけれど中身は空っぽ。しかし、愛は私たちを神の姿を持つ人たちに造り上げることができます。

１コリント 8:2-3 「ある人が、何かを知っていると思っているなら、その人は、知らねばならないように知ってはいないのです。しかし、神を愛する人がいるなら、その人は神に知られています。」

数年前、美樹と私は子供たちの大学と神学校の卒業式に参加しました。それは見事なものでした。卒業する全ての人たちがローブと帽子を身につけていました。最も印象的だったのは、神学博士や修士号を授与された学生たちが様々な色―赤、紫、青など―のローブを身に着けていることでした。

まるで神学的知識のオーラが漂っているかのようでした。とても立派で、少し圧倒されるようなものでした。自分には知らない多くのことを知っているのが伝わり、それを彼ら自身も理解しているように感じられました。これまでどれほど一生懸命に努力してきたかがうかがえました。

努力と達成は正当に評価されるべきです。しかし、彼ら自身も、みんなも理解しているのは、この学位を受けることによってほかの人より愛情深くなるわけではないことです。

私たちもこれを理解しないといけません。知識と愛は異なります。この二つは相互排他ではありません。神は最も知識に富み、最も愛に満ちた存在です。しかし、注意が必要なのは、愛のない知識は空虚であり、神の姿を映し出せません。

一方で、パウロはこう述べています。**「神を愛する人がいるなら、その人は神に知られています。」（1 コリント 8:3）ルカ 7 章**では、罪深い女性がイエスの足を洗い、口づけし、香油を注ぐ場面が描かれています。その時イエスはこう言いました。**「この人が多くの罪を赦されたことは、私に示した愛の大きさで分かる。」（ルカ 7:47）**

私たちはどれほど自分が罪深いか理解していなければ、神を本当に愛せません。そのときこそ、私たちはへりくだり、神の赦しと助けを受け入れることができます。これが、神がご自分の民を築き上げる方法です。イエスの赦しと働きによって、私たちは神を愛し、神にご自分の民として知られます。

（2）偶像に捧げた食べ物

１コリント 8:4-6 「偶像に献げた肉を食べることについてですが、この世に偶像の神などはなく、唯一の神以外にいかなる神もいないことを、私たちは知っています。現に多くの神々や多くの主なるものがあるように、神々と呼ばれるものが天や地にあるとしても、私たちには、唯一の父なる神がおられ、万物はこの神から出、私たちもこの神へと向かっています。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこ

の主によって存在し、私たちもこの主によって存在しています。」

古代では、結婚式などの行事は異教徒の神殿で行われることが一般的でした。聖書解説者ウィリアム・バークレーによると、一般的には動物がいけにえとして捧げられ、3等分にされていました。一部は祭壇で焼かれ、もう一部は祭司に渡され、もう一部はその場で食べられました。

宴会では、異教の神々がその場にいると考えられただけでなく、捧げられた動物の肉の中に宿り、その肉を食べた人の体と霊と結ばれると信じられていました。そのため、偶像に祈りを捧げなくても、捧げられた肉を食べることによって偶像崇拝に参加していると見なされました。

すべての行事がこのような形で祝われていたため、偶像礼拝を避けると、クリスチャンではない家族や友人、仕事仲間から疎遠になり、「付き合いが悪い宗教狂信者」と見なされるリスクを伴っていました。

今日では、寺院で偶像や仏を拝む人は、以下のように信じています：
その像の中に霊が宿っている。 祈り、金銭や食物を供え、香を焚き、痛みを伴う儀式を行うことでその霊を喜ばせれば、恩恵を受け、守られ、金銭や成功、良い人生を与えられる。反対に、霊を怒らせると害を受ける。

ある人は、小型の偶像を家に置いたり、持ち歩いたりして、以下のように信じています： それらの小型の偶像にも霊が宿っている。喜ばせれば恩恵を受け、怒らせれば害を受ける。そのため、その像を捨てることも恐れます。

さらに、日本やアジア、その他の地域では、死者の霊を崇拝する習慣があります。以下が信じられています：死んだ親族の霊が小さな像、位牌、写真に宿っている。祈りや奉納、香を焚くことで霊を喜ばせれば恩恵を受け、怒らせると害を受ける。そのため、それをやめることを恐れます。

しかし、偶像はお金や成功といった形を取ることもあります。以下が信じられています。
これらを手に入れれば、守られ、金銭や成功、良い人生を得られる。手に入らなければ人生は惨めになる。このため、人々はこれらを逃すことを恐れる。

偶像崇拝はさまざまな形をとります。パウロの時代には、「偶像に供えられた肉」がその一例でした。家族や友人との良好な関係を保つために、コリントのクリスチャンたちはこう言っていました。「私たちはこれを食べることができます。この世に偶像の神などはなく、唯一の神以外にいかなる神もいないからです。」

パウロはこれに同意していました。**「私たちには、唯一の父なる神がおられ、万物はこの神から出て、私たちもこの神へと向かっています。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在しています。」**(v6)

(3)弱い人々
1コリント8:7-9 「しかし、この知識が誰にでもあるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんできたせいで、偶像に献げた肉として食べ、良心が弱いために汚されるのです。食物が、私たちを神のもとに導くのではありません。食べなくても不利にはならず、食べても有利にはなりません。ただ、あなたがたのこの強さが、弱い人々のつまずきとならないように、気をつけなさい。」

パウロは次のように述べています。「しかし、すべての人がこの知識を持っているわけではありません。」「一部の人々は今まで偶像崇拝に慣れ親しんでいたため、」その肉を食べると「弱い良心が汚されてしまいます。」(1コリント8:7)
「弱い」という言葉は「正しい判断を下す力の欠如」を意味します。パウロが言いたいのはこれです。

クリスチャンが「唯一の神を信じている」と言ったとしても、弱い人々はこれまでの人生で偶像に捧げた肉を食べ、異教の神々と結びついていると信じてきた場合、クリスチャンになった後でも、偶像に捧げた肉を食べると異教の神々との結びつきがあると考えてしまうかもしれません。

1コリント8:10-13 「知識のあるあなたが偶像の神殿で食事をしているのを、誰かが見たら、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に献げた

肉を食べるようなことにならないでしょうか。そうなると、その弱い人は、あなたの知識によって滅びることになります。しかし、このきょうだいのためにも、キリストは死んでくださったのです。このように、きょうだいに対して罪を犯し、その弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。それだから、食物が私のきょうだいをつまずかせるなら、きょうだいをつまずかせないために、私は今後決して肉を口にしません。」

パウロは、知識がある人にとっては問題ないことでも、「弱い人」はその知識によって「滅びることになる」と言います。「きょうだい」、そして「キリスト」に対して罪を犯します。 パウロが「滅びる」という言葉を使うとき、いつも「永遠の最終的な破滅」を指しています。

教会の中には、まだ新しく生まれていない人がいるかもしれません。パウロが言うには、私たちの知識がそのような人をまた偶像崇拝に仕向けて、救いを妨げるかもしれないということです。実際に、私たちも気を付けないと、現代の偶像崇拝状況においても同じ過ちを犯してしまうかもしれません。

家族から疎遠になることを恐れるあまり、私たちは仏壇で亡くなった親族の位牌に祈ったり、線香を焚くかもしれません。心の中で「位牌には霊が宿っているわけではない」、「皆の救いのために神に祈っているだけだ」、「礼儀のために線香を焚いているだけだ」と思うかもしれません。
パウロは、弱い良心を持つ他のクリスチャンが私たちの行動を見てそれを模倣し、結果として位牌に対して守りや金銭、成功、良い人生を願い求めて、供養のために線香を焚くようになる危険性があると言います。私たちの知識が彼らの信仰を滅ぼしてしまう可能性がある、というのです。

また、この世の圧力に屈してしまうことで、私たちは子どもたちに成功やお金に信頼を置くよう教えてしまうかもしれません。クリスチャンの家庭で育てられた子どもたちは通常、幼い頃から人生とは神を信頼し、神を愛し、他人を愛することであると教えられています。そして、多くの場合、子どもたちは親の教えを信じるものです。

このため、子どもの口から時に美しい信仰の言葉を聞くことがあります。しかし、彼らがある年齢に達し、良い学校に入るために一生懸命勉強する必要が出てくると、私たちは次第に「これからの人生は成功がすべて」、「成果を上げることが重要」、「お金が大切」と教えてしまうことがあります。

時には「今は聖書を読んだり教会に行ったりする必要はない。今はもっと大事なことがある。勉強や成功を最優先にしなさい」と言ってしまうかもしれません。

私たちは心の中で、人生は神を信頼し、神に仕えることであると理解しているかもしれません。しかし、弱い良心を持つ子どもたちはその本質を理解できず、私たちが言った言葉をそのまま受け止め、成功や達成、そしてお金を信頼し、それに仕えるようになってしまうかもしれません。その結果、私たちの知識が彼らの信仰を滅ぼしてしまうかもしれません。

パウロは「知識は人を高ぶらせ、愛は人を造りあげる」と述べています。事実は、私たちは神を信頼していることを恐れています。他者を恐れており、世の中が信頼するものを持っていないことへの恐れを抱きます。しかし、パウロは神を愛しなさいと言います。自分の罪と信仰が弱いことを認識し、神の赦しと助けを求めましょう。これによって、神の民は築かれていきます。

その信仰、神への愛、その人格が私たちの中に築かれると、今度はその信仰をもって他の人を愛し、同じことをするように励ますことができます。彼らも神を愛し、自分の罪を認識し、赦しと助けを受けて、神の民として築き上げられます。偶像や成功、お金の崇拝を克服できます。

パウロは、**「知識は人を高ぶらせるが、愛は人を造り上げる」**と語っています**(1コリント8:1)**。私たちは神を愛し、自分の罪を認め、神の助けを借りて偶像崇拝をやめましょう。これは周りの人たちを励ますためです。もしそうしていないなら、イエス・キリストのもとに行き、罪の赦しと変えてもらうことを求めることから始めましょう。今日からそうしてください。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1625jp

★クラス 210
スモールグループについて学ぼう
4月13日(日)1pm - 5pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 301
賜物発見クラス
4月19日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101/201 を修了した教会員

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語訳字幕作成（1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．週末礼拝メッセージ翻訳（3名募集）
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

3．日本語訳レイアウト&印刷（女性 3 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。